令和５年１月 23 日

浜田市議会議長　笹田　卓　　様

議会改革推進特別委員会
委員長　　牛尾　昭

委 員 派 遣 報 告 書

本委員会は、下記のとおり委員を派遣しましたので報告します。

記

1　日　時　　令和５年１月 17 日（火）～18 日（水）

2　視察先と調査項目

(1) 島根県松江市

〇議会改革・議会の活性化の取組について

①政策研究会の取組・政策条例の制定・政策提言書の提出

②議会事務局の運営体制

③予算審査・決算審査

④その他

(2) 岡山県津山市

〇議会改革・議会の活性化の取組について

①電子採決システム

②議会活性化調査特別委員会の取組（市議会スタジオ含む）

③3 市議会交流会議（平成 30 年：長崎県諫早市、島根県出雲市、津山市）

④その他

(3) 岡山県久米郡美咲町

〇議会改革・議会の活性化の取組について

①美作大学・美作大学短期大学部との連携

（ＳＤＧｓパートナーシップ包括協定連携事業など）

②デジタル化の推進など

③その他

3　精算額　一人あたり 13,100 円（公用車１泊２日）

4　派遣委員及び同行者、事務局　（合計９名）

委員　牛尾　昭　　西田　清久　　足立　豪　　村武　まゆみ

小川　稔宏　　佐々木　豊治　　田畑　敬二

議長　笹田　卓

事務局職員　下間書記

5　調査の概要（視察の内容等）

【別紙のとおり】

議会改革推進特別委員会行政視察報告

【調査の概要】

1. 視察目的

先進市議会における特徴的な議会改革の取組について視察し、浜田市議会における議会改革の参考とする。特に議会における政策立案機能をはじめとする議会機能の強化、議会における ICT の活用と推進、議会と大学との連携について調査し、今後の取組に生かす。

2. 視察先・視察（調査）事項など

（1）島根県松江市

①視察日時　令和 5 年 1 月 17 日（火）午前 10 時～12 時

②視察事項　議会改革・議会の活性化の取組について
①政策研究会の取組・政策条例の制定・政策提言書の提出
②議会事務局の運営体制
③予算審査・決算審査
④その他

③視察先の概要

（市政概要）

松江市は古代出雲の中心地として早くから開け、江戸時代には城下町として栄える。平成 17 年（2005 年）八束郡 7 町村と、平成 23 年（2011 年）八束郡東出雲町と合併。

昭和 26 年（1951 年）に奈良市・京都市と並ぶ国際文化観光都市となる。平成 7 年（1995 年）出雲・宍道湖・中海拠点都市地域に指定され、平成 24 年（2012 年）には特例市、平成 30 年（2018 年）には中核都市となる。

松江市役所庁舎を建替工事中、令和 7 年秋完成予定（1　期令和 5 年春、2 期令和 7 年秋）で、議場は 1 期に完成予定。

市域面積 572.99 ㎢、人口 199,635 人、91,227 世帯、老年人口　59,833 人（30.0%）（令和 3 年 9 月 30 日）

（議会概要）

定数 34 人　現在数 33 人（内女性議員 6 人）

○会派別議員数　（6 会派）
松政クラブ 9 人、志翔の会 7 人、明政会 6 人、民主ネットワーク 4 人、
公明クラブ 4 人、日本共産党松江市議団 2 人、会派に属しない議員 1 人

○常任委員会 5
総務委員会、教育民生委員会、経済委員会、建設環境委員会、予算委員会

○特別委員会 6
宍道湖・中海問題等対策特別委員会、島根原子力発電対策特別委員会
総合交通対策特別委員会、まちづくり対策特別委員会
新庁舎建設特別委員会、松江市総合計画特別委員会

④視察内容

◆議会改革・議会の活性化の取組について

（１）政策研究会の取組・政策条例の制定・政策提言書の提出

①政策研究会の取組・政策条例の制定

制定した政策条例は松江市自転車安全利用条例（平成 26 年 8 月 1 日）1 件のみ。

研究会で検討され提案、制定された。政策立案及び政策提言能力の向上を目的として政策条例研究会を設置。

《第１期政策条例研究会 H24 年 9 月～H25 年 4 月》

7 回の研究会を開催し、条例のテーマや条例案策定までの作業工程を決定。

プレゼンテーションをし、9 つのテーマから自転車に絞り、条例策定作業の進め方の勉強会等を開催。

条例制定までの作業内容

①立法事実の明確化に係る作業　　情報収集と現地調査
②条例案作成作業　　スケジュール、条数決定
③執行部との調整作業
④関係団体、関係者、専門家の意見聴取等の作業
⑤市民意見聴取会、パブリックコメントの作業

《第２期政策条例研究会 H25 年 7 月～H26 年 5 月》

平成 25 年 4 月改選後引き続き検討。10 回の会議を開催し条例案を決定。2 つの部会に分かれて作業。当初 5 カ月間での完成予定が 10 か月かかった。

第 1 部会　定量的データ収集、現地調査、通行環境チェック
第 2 部会　他都市の条例調査、参考資料作成
情報共有し平成 26 年度の定例会で可決。
制定後は周知のためのチラシ配布、マナーアップの街頭指導など取組む。
改正前後で市内での人身事故件数が月平均 6.6 件から 4.4 件に減少

平成 29 年改選以降は必ずしも条例制定にこだわらないということで「政策条例研究会」から「条例」を取って「政策研究会」へ。

②政策提言書

検討すべき市政の課題について意見を出し合い協議した結果、郷土の歴史や文化の継承、国際文化観光都市をテーマにした条例を作ることを目標とすることになった。政策研究会も 2 年を区切りとし協議を進めた結果、条例制定ではなくて市長への政策提言という形になった。

市長側でも条例検討を進めている話があり「議会の意思を取り入れた条例にしてほしい」という提言書を平成 31 年 3 月市長に提出。市は翌年度末、松江の文化力をいかしたまちづくり条例を制定した。

令和元年以降は自転車条例の検証。条例等の検討に関しては町内会・自治会を応援する条例の制定に向けて取組がなされたが、会派をこえて政策条例を作ることが難しく、条例制定に至っていない。

令和 3 年の改選以降、「政策条例は各会派で検討し作る方向」で現在、政策研究会は発足していない。

（２）議会事務局の運営体制

議会事務局構成　定数 12 人、現員 11 人

事務局長 ― 次長（総務課長）
- 【総務課】
  - 総務課長 ― 総務係（3 人）
- 【議事調査課】
  - 議事調査課長
    - 議事係（3 人）
    - 調査係（2 人）

（３）予算審査・決算審査

○平成 19 年まで予算特別委員会では一般会計当初予算のみの審査としていた。

○平成 20 年 2 月定例会～　全ての当初予算について議長を除く全議員で審査を行っている。
○平成 28 年 2 月定例会～　予算特別委員会の常任委員会化
○平成 28 年 6 月定例会～　一般会計補正予算の常任委員会への分割付託取り止め予算委員会に一体的に付託。各常任委員会を分科会とし、予算委員会から各分科会の所管ごとに分担して行う。審査は質疑までとし討論、採決は全大会のみで行う。
○平成 28 年 9 月定例会～　決算特別委員会分科会における議案採決を取り止める。

［参考］予算委員会運営指針
決算特別委員会運営指針

（4）その他

①政務活動費

議員に交付するもの（月額）　１人当たり 25,000 円
会派に交付するもの（月額）　所属議員数×15,000 円

②議会基本条例の検証に関する実施要領

・基本条例の検証は議会運営委員会において行う。
・検証の方法は検証シートにより会派ごとに A、B、C 区分で評価等行う。
・議会運営委員会において会派ごとの検証シートにより議会としての評価結果及び今後の方針を決定。

⑤委員の所感

【牛尾委員長】

・副議長始め、議会事務局長以下 5 名で丁寧な対応であった。特に、議員提案条例については、 副議長から丁寧な説明を受けた。
・その他の質問については、議会のシステムの違いもあり、少し空回りを感じた。この時期の受入れに感謝である。

【西田副委員長】

・政策研究会の取組、条例の制定、政策提言書についてでは、議会のチェック機能とあわせて重要な政策提案機能を、自らバージョンアップさせるべく地域開発研究所の牧瀬先生を招いて条例策定作業の勉強会を開催し、条例のテーマを絞る過程における政策研究会の議員の皆さんの思いが伝わってきた。
・「松江市自転車安全利用条例」（案）を作成した後の定量的データを収集するための聞き取り調査や定性的データを確認するための現地調査などの作業は、いい加減なやり方はできないので、本気度を強く感じた。
・政務活動費の改正等に関する経緯についてでは、松江市においては、オンブズマン的な方が議会にもおられたということで、それなりの対応をしてこられた。浜田市では、監査委員のチェックもあり、また自ら 1 円以上の領収書を添付しているので外部からの指摘には答えているが、議員が活用しやすいかどうかは、定期的に議論が必要と思う。
・議会基本条例の検証についてでは、議会基本条例の検証の方法として検証シートにより評価することは、浜田市議会においても検討に値する。

【足立委員】

・基本条例の検証シートは、時代に即した条例改正に有効であるものの、議員個々の捉え方により評価が分かれことが想定される。ただ、常に条例を基本とした議員活動を行うことができるメリットも想定される。

・議会図書室の活用について課題で挙げられており、どの自治体でも対応に苦慮していることが理解できる。地方自治法が時代の流れに追いついていない現状をくみ取ることができる。
・政務活動費は、個人への交付は年額 30 万円だが、会派交付は一人あたり年額 18 万円で、合計で 48 万円であり、執行率は高くないが統計はとっておらず、今のところ問題となってない。
・議会全体を見まわしていると、浜田市議会の取組がすこし先を行っているようにも感じた。他市と直接比較することで、浜田市議会の現在の位置づけを的確に把握することにもつながると考える。

【村武委員】

・政策条例研究会においての「松江市自転車安全利用条例」の策定は、プロセスや内容は素晴らしいと感じた。しかし、事務局も含め、議員の負担感が強いと感じた。
・基本条例の検証をするのに、検証シートを作成しているのは良いと感じた。課題などが明確にわかりやすく、改正へ進みやすい。
・政務活動費については金額が多く、羨ましいが本当にきちんと使われているのか疑問を感じた。

【小川委員】

・自転車条例は好事例だが制定に至る過程で相当なご苦労があったため次につながっていないのが惜しまれる。意見の違いや各議員の主体性を尊重し、あまり無理をしないという印象を受けたが、その観点も大切だと思った。できれば負担感の要素や原因について振り返り、政策提言、条例制定等に向けた議会力を高めるために、何が不足しているのかが検証されていれば良かった。
・議会事務局との連携や議会事務局専門職員の配置等の専門性の補完や、高等教育機関の知見の活用などでも可能性は広がると思う。
・政策条例研究会の仕組みやフロー図などは今後、会派等で政策立案や提言、条例策定を考える場合に活用できると思う。

【佐々木委員】

・政策条例制定についてでは、政策条例「松江市自転車安全利用条例」を平成 26 年 5 月に制定された実績は大きく評価すべき事例と感じる。会派から選出された研究会の活動から出来上がったものでたいへんな苦労があったと思うが、市民には議会の存在感を示す取組になったと思う。

【田畑委員】

・理念条例でなく政策条例を策定されたということで、各議員が実際に自転車走行するなどして策定に向け、尽力されたことはすばらしいと思った。
・予算審議などは浜田市と手法が異なっており、あらためて市議会によって議会運営の方法が異なることを実感した。

▼ 野々内副議長のあいさつ・説明

▼ 調査項目の説明

（2）岡山県津山市

①視察日時　令和５年１月 17 日（火）午後３時～5 時

②視察事項　議会改革・議会の活性化の取組について
①電子採決システム
②議会活性化調査特別委員会の取組（市議会スタジオ含む）
③3 市議会交流会議（平成 30 年：長崎県諫早市、島根県出雲市、津山市）
④その他

③視察先の概要

岡山県北東部に位置する都市と自然が融合する地域。人口は 98,791 人（令和４年 12 月１日現在）、面積 506.33 ㎢。予算規模 449 億 7,700 万円。セールスポイントは「桜（春は津山）」「B’z 稲葉浩志の出身地」「肉料理」。

議員は定数 28 人（男性 26 人、女性２人）。常任委員会は総務文教、厚生、産業、建設水道。特別委員会は広報調査、議会活性化調査、高等教育機関のあり方調査、議会運営委員会。

議員報酬：議長 555,000 円、副議長 515,000 円、議員 465,000 円

視察旅費（年額@1 人）：常任委員会 75,000 円、特別委員会 42,500 円、
会派 150,000 円

政務活動費（月額@1 人）：議員交付額 50,000 円（年額 600,000 円）

収支報告書をインターネット公開（H23～）、領収書、出張報告書をインターネット公開（R 元年～）

予算及び決算審議は一般会計・特別会計・企業会計を所管の常任委員会に分割付託して審議している。

④視察内容

◆議会改革・議会の活性化の取組について

（１）議会活性化調査特別委員会の取組について

①主な議会改革
・対面方式及び電子表決決済システムの導入（H31.6）

②議会報告会・懇談会の開催
・委員会等の単位で班編制し、商業施設やコミュニティ施設で議会活動の報告や意見交換を実施。
・市内の大学・高専・高校生を対象に魅力あるまちづくりをテーマに意見交換会を実施。
・令和２年２月以降はコロナ 禍で開催できていないが、令和３年度は、希望するテーマや日にちに応じて市民のもとに出向く「出前懇談会」を実施。
参加人数 748 人。

③議会 DX による効率化

【タブレットの導入】
・タブレットはセルラー型（３G）
・連絡事項、データは基本的にチャットツール LINE WORKS を活用。手軽に確認できる。

（２）議会スタジオについて

①始めた理由
・市民アンケートで議会に対する関心低さ
・傍聴等で見ている人は好意的、見たこともないのに否定的

・視覚障害者の方への「声の広報」の導入の提案
・iPad が導入された
⬇
・まずは知ってもらう、関心を持ってもらう
・一般的な専門業者に委託したら予算がいる
・何か他にタブレット端末の活用方法がないか
⬇
YouTube で動画配信をしよう！
津山市議会事務局ソーシャルメディア運用方針を作成
②【公式】津山市議会―市議会スタジオ
スモールスタート　新たな費用はほぼゼロ、議会の手作り
・広報委員会で配信内容を決定「内容・出演者・狙い」
・動画を議場で撮影
・動画の編集作業　事務局　編集ソフトは iMovie(無料)
・正副委員長の確認を受けて完成、配信　撮影から配信まで 1 週間程度
全議員に配信のお知らせと広報のお願い
・動画はなるべく短く（5 分から 10 分）
・字幕をつけたり、説明用スライドを入れる
③「声の広報」津山市議会バージョン
・出演者は会派の当番制（くじ引き）自分たちでやってみる
④課題
・再生回数が少ない　R5.1.12 現在で 348 名（開設時 R3.11.18 の時点 246 名）
思わず再生してしまうような、より魅力的な内容の動画が必要
・視聴者の意見を聞く方法がない　コメントを残してもらえない

（3）電子決済システムについて

①令和元年 6 月定例会から導入
②導入の利点は傍聴者だけでなく、インターネット中継などの視聴者にも各議員の表決態度、賛否の数的状況が視覚的に明らかになる。議会の公開性を高め、議員表決の政治的責任をより明確にすることができる。
③運用手順
・採決時に議長が議員に対して、採決ボタンを押す指示を出す。
・議員が議席マイクの賛成、反対ボタンを押す。各議員が押したボタンの内容が随時、議場内のモニター2 台に反映。表決を棄権する議員は議場から退室。

⑤委員の所感

【牛尾委員長】
・冒頭、議長が挨拶、すぐ退席された。浜田藩については、ふれられたが、少しがっかりした。のちに、経験の浅い 3 人の職員さんから、行政視察受入れは初めてなので、と断りがあり説明を受けたが、熱心であった。
・特に、LINE WORKS のアプリについては、関心を持った。議会への印象はいま一つであったが、職員さんたちの姿勢は良かった。

【西田副委員長】
・電子採決システムについてでは、議案等を採決する際、議席マイクに設置されている賛成・反対ボタンを押すことでディスプレイにデジタル表示されるので、議長が長いタイトルの議案を繰り返し読む場合など活用の仕方で、時間短縮につながる可能性がある。浜田市も参考になると思われる。
・LINE WORKS のアプリ活用は、事務局と議員、または会派や委員会などストレス

のかからない方法だと思う。浜田市でも取り込めると良い。
（浜田市議会事務局によると来年度機器更新で、ラインワークスの使用も可能とのこと）

【足立委員】

・物事を様々な角度から見られ、議会スタジオへの取組や議会への親しみも併せたCM作成など、斬新な取組と思われる。
・議会事務局とのやり取りはオンラインがベースとなっており、その点では浜田市議会と同様であるものの、LINE WORKSのアプリを活用し事務局とのやり取りや議員間での活用は大変参考になった。
・市民に対する議会への認知度向上は、浜田市議会と同様に苦慮されていることが伺える。

【村武委員】

・議会ＤＸのチャットツール、LINE WORKSは便利だと感じた。しかし、浜田市議会においては、セルラー型ではないので、そこに取り組む必要がある。
・議会スタジオとして、議員が汗をかき広報活動に取り組んでいるのが素晴らしいと感じた。視覚障害者向けの「声の広報」津山市バージョンも自分たちでできることに取り組んでいる姿勢が素晴らしいと感じた。浜田市議会において、できるかどうかわからないが検討しても良いと思う。
・電子決済システムは議員の責任感も向上するし、市民に向けてもわかりやすく、良いと感じた。

【小川委員】

・商業施設等での議会報告、大学・高専・高校生との意見交換、出前懇談会などを開催するなど、議会と市民との距離がとても近い印象を受けた。
・政務活動費を減額して議会DXの財源に充てたり、視覚に障がいのある方への配慮から議会スタジオ「声の広報」も導入され、編集作業を一生懸命されている様子を伺い、議会の誠実さを感じた。
・議会改革の目的についても議会の自己満足ではなく市民本位に考えられており、私自身も改めて気づかされた。タブレットのセルラー方式の採用やLINEWORKSの活用等については検討の余地はあるが、電子採決システムは視認性で優れているものの費用面で検討が必要と思われる。

【佐々木委員】

・「議会スタジオについて」では、アンケートの結果から「見たこともないのに否定的」の結果は残念だが、おそらく多くの議会での市民評価と感じる。議会の活動内容を知ってもらうために取組まれた動画配信について、一般質問などノーカット版だけではなく、市民に見やすく内容を加工して短時間にして配信されている取組はとても参考になった。

【田畑委員】

・昭和56年7月28日から岡山県津山市・長崎県諫早市・島根県出雲市の3市交流都市連携がされていた。同じような人口規模にあって、地域経済の振興をはじめ、定住促進、文化・スポーツ振興など、共通の課題を克服すべく、交流が継続されている。
・議会の活性化の取組では、議会報告会・懇談会開催等し、また、市内の大学・専・高専・高校生を対象に魅力あるまちづくりをテーマに意見交換するなど、活発に活動されていて、大変参考になった。

▲津本議長から歓迎のあいさつ

▼電子採決システム：表示板

▼電子採決システムの説明

（3）岡山県久米郡美咲町

①視察日時　令和５年１月 18 日（水）午前９時～11 時

②視察事項　議会改革・議会の活性化の取組について
①美作大学・美作大学短期大学部との連携
（ＳＤＧｓパートナーシップ包括協定連携事業など）
②デジタル化の推進など
③その他

③視察先の概要

美咲町は、岡山県のほぼ中央部に位置し、南は久米南町や吉備中央町西は真庭市、東は美作市、そして北は、県北部の中心都市の津山市に隣接しており、総面積は、232．17 ㎢で、県の総面積の約 3.3％を占めている。

町制施行は平成 17 年３月 22 日、令和４年 11 月末現在で人口は 13,067 人（男性 6,235 人、女性 6,832 人）、世帯数は 5,869 戸である。

令和４年の町の主要施策は、義務教育学校、多世代交流拠点整備、小規模多機能自治、行財政改革、美咲 DMO、庁内改革・DX。

令和４年度の当初予算額は一般会計予算は、120 億 2,747 万円。

議会構成については、議員定数は条例定数 14 人、現員数 14 人である。委員会構成は２つの常任委員会（総務産業常任委員会、民生教育常任委員会）と４つの特別委員会（議会広報特別委員会、議会活性化特別委員会、多世代交流拠点特別委員会、義務教育学校特別委員会）で構成されている。義務教育学校特別委員会では、２つの小中一貫義務教育学校を開校にて推進している。

④視察内容

◆議会改革・議会の活性化の取組について

「議員のなり手不足」や「若者の議会離れ」、「人口減少」に議会としての危機感を感じ今と未来の取組を掛け合わせて、持続可能な議会を創造することを主眼に取

組を進めている。・持続可能な美咲町議会の取組として、議会改革を進めている。

（１）美作大学・美作大学短期大学部との連携
（ＳＤＧｓパートナーシップ包括協定連携事業など）

①「政策提案×美作大学の実習生」
　社会福祉士を目指している美作大学生と連携し、課題解決に向けた研修会を議会対象に実施していた。

（２）デジタル化の推進など

①「ペーパレス議会×SDGS」
　浜田市議会も取り入れているが、ペーパレス会議により、紙での資料をなくし、経費削減と議会運営の効率化を行っている。

②「議会 BCP×ICT」
　美咲町議会 BCP を策定し、災害時の議会や議員の役割、町との連携の在り方、本会議、委員会の対応や連絡体制などを盛り込んだ。

（３）その他

①「担い手の育成に未来の議会（中学生）」
　中学生目線で町政への質問や提案を行う子ども議会を実施。議場で中学生が議員役を務め、対執行部へ質問する方式。

②「出前議会」
　広報委員会のメンバーが、地域の各団体等に、声をかけて実施されていた。住民が 10 人以上集まれば広報委員会はどこでも行くとのことである。

⑤委員の所感

【牛尾委員長】
・議会挙げての対応に感激した。視察対応は、こうで有りたいと感じ、改めて検討すべきと思った。　大学との交流は、大変参考になった。

【西田副委員長】
・「美作大学・美作大学短期大学部との連携」では、大学と町議会が「SDG ｓパートナーシップ包括協定」を結ばれたことは、浜田市にも十分参考になった。大学、高校、中学、小学、市民（若者）などと議会が、それぞれに強い繋がりを築いていくことは、人口減少や若者の議会離れに長い目での大事な対応だと思った。

【足立委員】
・美咲町議会、浜田市議会とも現時点の課題を双方抽出し合う形でやり取りができ、非常にやりやすい雰囲気の中でお互いの現状認識をすることができた。
・大学との連携は、議会全体として積極的に関わろうとされる姿があり、議会一体として取り組んでおられることが話から伺うことができた。
・町議会において政務活動費はなく、また、ほとんどのものは自費でされているとの話であったが、町議会議員でも一定程度の「経費」は必要であり、議員の担い手不足に拍車がかかる面は否めないと思われる。

【村武委員】
・お出迎えなどおもてなしが素晴らしく感動を受けた。
・美作大学と町議会とのパートナーシップ包括協定連携事業は素晴らしいので、浜田市議会でも島根県立大学とできないか検討してみたい。そこから若者の意見を聞くことができるし、大学生と市との関係性が作れると感じた。
・出前議会の呼ばれた団体へ議員が出向くというスタイルは面白いと感じた。数が多くなったら対応が難しくなるという課題も考えられるが、浜田市議会においてのまちづくりセンターに行くスタイルでは参加人数の課題も感じるので、

浜田市議会でも検討しても良いと感じた。
・視察時間後にいただいた議会だよりも読みやすかった。何度か表彰も受けている。
・全体的に事務局職員も少なく、大変さも感じたが、その分、議員ができることはするという姿勢を感じた。

【小川委員】
・児童・生徒、大学生の意見を聞こうとする姿勢がとても積極的に感じた。大学との連携についても研修会をきっかけにうまく繋いでいると思った。大学との意見交換も福祉学科の次は児童福祉学科と行い、小中学校との意見交換もできつつあり今度は高校生との話合いを企画されるそうである。
・「地方議会人」でも注目されている背景にはそうした発展性が評価されていると思う。他県出身者が町内に就職されるという話もうなずける。今は若い人の意見を聞くことをメインに取組み、具体的な施策に繋がるものは少ないとのことだったが、こうした取組みを積み重ね、ケアラー支援条例等につながることを期待する。

【佐々木委員】
・とても丁寧で、歓迎の気持ちが大きく受け止められる視察対応だった。議会のみなさんは町民に対してもとても暖かく接しておられるものと感じた。
・広聴活動において、小中高大学生、子ども達との連携やかかわりや出前議会の取組はとても参考になった。

【田畑委員】
・対応していただいた正副議長、議会運営委員会の議員の皆さんの、丁寧な説明であり、「誰一人取り残さない×伝わる議会」、「担い手育成×未来の議会（小学生)」、「出前議会」等は、思いつかなかった手法で実施されていた。
・ＳＤＧｓパートナーシップ包括協も大変参考になった。市議会として、美咲町視察の課題として整理し、提言に向けたい。

▲ 美咲町議会の歓迎の様子

▲ 松島議長による説明

3.委員会の考察

(1) 議会基本条例の検証（評価）シートについて

【問題点】

①評価に多くの時間がかかる
②検証シートの作成が難しい
③達成の評価が難しい（個人によって異なる）
④部分的に検証シートを作成し、活用することは可能ではあるが、その事務負担も危惧
⑤基本条例に数値目標を定めていないため、評価が難しい

【検討課題】

①議会基本条例第25条「目的が達成されているかどうか」についての議論が必要
②目的が達成しているかどうかを会派でまとめて「見える化」するしくみも必要であり、議会の活動を明らかにする意味においても良い
③目的を達成しているかどうかの意見を会派または各議員に出してもらい、その結果により条例改正していく、そこまでの議員間での議論のプロセスが重要
④検証シートを作成し、活用していくかどうかを今後検討

【そのほか】

①これまでは改正が必要と思われる箇所を抽出して必要に応じて改正していた。現在のやり方（見直しが必要な箇所を抽出するやり方）でよいのではないかという意見もあり

(2) 政務活動費について

①他市の事案を参考に活用の検討が必要
②政務活動費について検討していくかどうかを今後議論（現在の問題点を抽出）
③議員自身が使い方に問題意識を持ち、活動に使っていくことが重要

【今後議論する際に必要な内容】

・政務活動費を削減し、その分を、他事業に充当という考え方もある（津山市）
・後払いになったために執行率が悪くなったとも思われるため、前払い、後払いについて再度検討が必要
・執行率を踏まえた議論が必要

(3) 政策条例について

①条例策定後に次の条例策定につながるような検証が必要
②松江市議会の研究会のしくみやフロー図などは参考になる
③会派による構成で議論したことには意義はあると思うが、会派だけでなく、委員会や議員連盟等での策定も検討すべきであり、浜田市議会にふさわしい条例策定を模索していくべき
※政策集団である会派で条例策定していく動きが本来の姿であるという考えもある
④議員が実際に現場検証しながら条例策定されたことは参考になり、現状把握は必要
⑤条例策定の際の専門的知見や法制能力も必要であり、今後検討が必要

(4) 議会のICT推進について

①LINE WORK導入の検討
・タブレットの更新の際に検討可能。
・スケジュール管理（正副議長の予定の把握）

②電子採決システム
・議事進行の効率化
・市民・傍聴者にわかりやすい
・議員の責任が明確になる
・導入経費が課題
③タブレットのセルラー方式の検討
・災害時での活用
・導入経費や事務局負担が課題

（5）大学との連携について

①島根県立大学の知的財産としての活用
・議会と大学とのパートナーシップ包括協定の必要性
（浜田市議会でも整理し、協定の内容など今後検討）
・議会側から積極的に連携を行う姿勢
②県立大学生の意見を取り入れるしくみ
・県立大学生と日常的な意見交換ができればよい（協定内容にも入れる）
・若者（学生など）の意見を聞き、それを具体化する動きが重要
（条例制定などにつながるとよい）

（6）広聴について

参考になった案件は下記のとおり
①議会スタジオ、声の広報（津山市）
②商業施設での議会報告、出前懇談会（津山市）
③若い人の意見を聞く場が必要
④出前議会（出前議会報告会）の実施（美咲町）について、議会広報広聴委員会へ情報提供
⑤議員自らが活発に活動（美咲町）
⑥小・中・高校・大学・地域というように、ターゲットを絞っての広聴活動も重要